

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年より、事業所独自の目標設定を行い、誰もが目につく所に掲示している。毎朝朝礼時に唱和している。ただし、地域密着という視点での理念作りは行なっていない。	○	地域密着型サービスとして、どのように地域との関係を築いていくか模索中である。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業の理念、運営方針は文章が長く、目につく所に掲示してあるのみだが、サービス方針(心得)を毎朝朝礼時に唱和している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議において、法人理念とサービス方針の説明を行い、地域の自治会の会場に施設を利用してもらった際にも認知症やグループホームの説明を行った。見学や問い合わせにも随時対応している。	○	地域密着型サービスとしての事業所のあり方を確立し、ご家族や地域の方にアピールする機会を作りたい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に、周辺施設(美容室、コンビニ、薬局)を利用している。理容室の方に来て頂くこともある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2校区分の回覧板に広告を載せている。また、地域の行事(校区内の夏祭り、餅つき)に職員がボランティアで参加している。幼稚園と物品の貸し借りを行ったり、自治会の会場に施設を利用して頂くこともある。	○	運営推進会議を通して、他にも出来ることが見えてくると思われる。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域婦人会の勉強会としての見学受け入れや説明会の実施、地域老人会の集まりで介護保険の説明会、認知症を抱えたご家族からの家庭での対応やサービス利用の相談等を行った。	○	同上。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去に受けてきた評価の中で出来ていなかった項目に優先順位をつけ、改善してきた。(表札の設置、ケアプランの期日の遵守、各マニュアルの整備等)	○	運営推進会議の円滑な実施。家族会の実施。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に関してまず他施設の状況、会議録のあり方等を情報収集し、どのような会議とするか検討してきた。1回のみで開催のため、まだサービスの質の向上にまではつなげられていない。	○	会議を円滑に実施し、利用者に提供するサービスの質向上に役立てたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上での疑問や相談は、市の担当者に電話している。また、提出書類は郵送せず、直接持ち込んだりして会話の機会を持つようにしている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフを研修に派遣し、他部署スタッフ合同の勉強会のテーマとした。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフを研修に派遣している。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の場を設け、十分な説明を行ない、理解、納得を得ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの意向や日々の意志確認も難しい状態ではあるが、嫌がること、好むこと等の言動から本人の意向を探っている。運営に関する意見や不満、苦情等を外部者へ表せる機会は持っていない。	○	現在は、対象となる方がいないが、適する方が入居された際は、運営推進会議に参加してもらい、外部者との接点作りを行いたい。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回のホーム便り（ひなたぼっこ）、ケアプランの見直しの際の報告、出納帳の毎月の確認、事故や体調変化など随時の電話連絡等細やかにこなしている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご自分で運営に関する意見を話される利用者がほとんどいらず、ケアプランの意向や日々の意志確認も難しい状態のため、代理としてご家族の意見、不満、苦情に耳を傾ける姿勢を大事にしている。運営上のお知らせの際には、必ず意見書（アンケート）を同封している。苦情窓口の案内等も施設内に掲示しているが、外部者に表せる機会を設けられていない。	○	運営推進会議にご家族にも定期的に参加してもらおう。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場の意見を取りまとめ、運営者に伝達している。運営方法や利用者の受け入れ、職員交代等の決定、その時期に関しては、施設の方針として現場に伝達され、そこに必ずしも現場の意見が反映されるわけではない。方針を前向きに受け入れ、具体的な動きを現場主体で考えていくことで、スタッフの意欲を引き出したり、サービスの質の維持に繋げている。	○	年度初めの事業計画の策定を運営者と現場の双方向的な会議によって行なう。そこには、運営推進会議で生まれた改善点や利用者一人一人の思いを取り入れた方向性が定まるよう配慮する。
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕を持った人員配置により、勤務調整がしやすいようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年くらいは、異動、離職なく馴染みのスタッフでケアを提供できている。運営者は、現場主体の考えを尊重することでこの状態を継続し、離職を最小限に抑えるとの考えを持っている。やむを得ず異動する場合は、スタッフの適性を考慮している。		
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	これまで採用しているスタッフには、様々な年齢の男女がいる。正社員かパートかに関らず、資格取得や研修の参加を勧め、その機会を持ってもらっている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	特に人権教育は行なっていないが、職務の中で職員同士が意見交換を行なうなどして、啓発には心がけている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社員、パートの別なく、内外の研修に積極的に参加させるよう努めている。また、研修内容をまとめ、資料とともに報告するシステムがある。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡市グループホーム協議会に所属し、今年度は世話人として2ヶ月に1回の研修会の開催の責任者となっている。また、他のグループホームの職員の実習受け入れを行ない(隔月、週1回、2年間)、相互の情報交換、交流の機会としている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人のカウンセリングルームによるストレスマネジメントをテーマとした内部研修を通年でスケジュールを組み、月2回開催している。また、管理者はスタッフの思いを汲み取ることに努め、まめにスタッフの話の聞いたり、声かけを行なっている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	正社員には、人事考課による評価、面談、目標設定を通して個々の勤務状況を把握している。パート職員には、面談と管理者からの報告により、勤務状況を把握している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人に会い、その方が置かれている状況を把握し、ご本人の言葉と環境からその方の思いを受け止めるよう努力している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご自宅へ訪問し、面談を行なっている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族だけでなく、在宅のケアマネージャーや現在利用している事業所にも出向き、話を伺い、その方の状況を理解することに努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人の気持ちに沿いながら、ご家族と細やかに連絡を行ない、馴染んで行く課程を丁寧に記録し、検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者もスタッフも各々の個性を前面に出し、お互いに受け入れあって毎日を過ごしている。喜怒哀楽を共にし、ケアしたり、ケアされたりの関係性を築いている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	密な情報交換により、立場が異なっても、共に利用者を支え合う者同士として喜怒哀楽を共にし、信頼関係を築いている。		
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの事に加え、遠方、高齢、仕事を持っている…等ご家族の現在の生活の事情を踏まえ、無理なく関係作りを行っていただけるよう支援している。(久しぶりの面会や贈り物があれば、写真を撮り、後日郵送したり、ご本人がお礼状を書くことを支援するなど)		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく馴染みの人や場所との関係が途切れないよう対応している。また、入居に至る時点では、すでにこれまでの社会性・関係性を失っている場合も多いので、その中で取り戻すことが可能なものを発掘し、再び獲得していただけるよう支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自然と隣に座る関係、時折話をする関係、ケンカもするが、仲が良い時もある関係など、把握し、配慮している。また意外な取り合わせの際は記録に残すなど、スタッフ間で情報交換に努めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設に転居された方に会いに行ったり、入院された方のご家族との連絡を続けたりしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に、何かを選んでもらう機会を大事にしたり、誘導時も本人が納得のいくような声かけを行なうよう努めている。意志確認が困難な場合でも本人本位に検討している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族より生活歴を詳しく伺う。また一緒に暮らされたご家族以外の方からも面会時等に情報収集を行ない、過去の大体の流れと細かいエピソードをつなぎ合わせて利用者の人間像を理解できるよう努めている。		
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	細かく観察を行ない、記録を残したり、スタッフ同士で情報を共有できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	記録類の振り返りを行ない、課題を明確にし、本人、ご家族の意向、医療ニーズを把握し、各スタッフの意見を取り入れたケアマネ作成の原案をカンファレンスで検討し、最終的にご家族に了承を得ている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に伴い、ケア内容を見直し、現状に即した新たな計画を作成している。また、細かいケア項目ごとにチェック表を毎日つけ、客観的な評価をしやすいよう工夫している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	数値や○×で記録できる情報はチェック表を用い、文章でないと表現できない細かいことは個別記録に残し、それでも伝えきれないことは図解したり、口頭で説明するなどして、情報の共有をはかり、毎日のケアや介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、その利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続、重度化した場合や終末期の入院の回避に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	マッサージのボランティアに定期的に訪問してもらったり、隣接するデイサービスに訪れるボランティアの催しに日常的に参加している。		
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問マッサージや訪問看護、タクシー券等、介護保険以外のご本人に必要なサービスを受けられるよう支援している。そのために、各関係者への相談・連絡を行なっている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらった。個別事例に関しての共働作業には至っていない。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者とその家族の希望されるかかりつけ医との連携に努めている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	信頼できる専門医療機関に、必要時受診できるように支援している。また、認知症の専門医ではないが、高齢者の在宅医療に熱心で、ご家族や介護職の相談に親身に乗って下さる医師を地域の中で確保している。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接するデイサービス所属の看護職が、利用者の日常の健康状態を把握し、24時間気軽に相談できる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、情報提供を細かく行い、家族、担当医師、ソーシャルワーカーと面談を行い、入居者にとって最善の治療方法を話し合っている。		
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、看取りに関する指針に沿い、できるだけ早い段階で、ご家族、かかりつけ医、スタッフと話し合いを行い、状態変化がある都度、話し合いを重ね、その方と家族の意向をその都度確認し、記録に残し、関わりのあるスタッフ全員で方針を共有できるようにしている。	○	まだ入居者全員のご家族と話し合いの場が持っていないため、時期を考えながら徐々に事業所の指針について説明し、相互の理解を深めていきたい。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の変化に沿いながら、当事業所のスタッフ、かかりつけ医、諸条件の中で可能なこと、難しいこと、不安なことを考えながら、体制作りに取り組んでいる。	○	スタッフ全員が吸引の技術を持てるようになる。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	暮らしやケアの継続性に配慮し、細やかな情報提供を行っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のこれまでの生活状況や生活など考慮しながら、それに適した言葉かけ、ケアを行っている。また、知りえた個人情報は、他の入居者や家族に漏らさないよう、職員間で留意し合っている。個人情報が記載された書類は、裏紙使用せずシュレッダーにかける、等のルールがある。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、その方の力に合わせて、入居者の負担にならない範囲で、残存能力を活かし、利用者自身が決定する場面を作り、その方が納得するような声かけを行っている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	マイペースに過ごしてもらえよう、特に日課は定めていない。食事時間もある程度決まってはいるが、その方の気分によって時間をずらしたりしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は、その方の好む色や肌触り、デザイン等を把握し、ご家族と相談しながら用意している。理・美容室は、希望に応じて、近所に出かけたり、事業所に来てもらったりしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、スタッフとも、併設のケアハウスの厨房で作られた食事を同じテーブルを囲み一緒に食べている。厨房からグループホームのキッチンに持ってきたら、入居者と一緒に盛り付け、温め直したり、食べやすいよう刻んだりすることで、食事前の雰囲気を作り出している。食後は、入居者と一緒に下膳し、食器洗いの一部を手伝ってもらったりしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者と食べ物の嗜好について話題にすることが多く、本人の好みのジュースやおやつ、食べ物を用意している。厨房で作られた食事が進まないときは、本人の好みの代替食が提供できるようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、その方の排泄パターンを把握し、適切な支援方法を考えている。オムツが必要な方でも、ポータブルトイレを使用し、なるべくパットを濡らさなくても良いように配慮している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を固定せず、その方の希望やタイミングに合わせて、誘導している。拒否がある場合もなるべく納得してもらえような声かけを工夫している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動量、その方の体力等を考慮し、適度に休息をとってもらいつつ、昼夜のリズムをつけることが出来るよう配慮している。眠剤は必要性を検討し、減量したり、なくしたりといった支援に取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の生活暦等考慮し、負担にならない範囲でレクリエーション(歌を唄う、体操)やおやつ作りの手伝い、厨房にご飯を取りに行く際手伝ってもらったり、買い物に参加してもらったりしている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を所持してもらったり、買い物をする際に本人の承諾を得て、預かり金の中から購入するなど、財産を持っている気持ちに対する配慮を心がけている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご自分から戸外に行きたい、と希望される方はほとんどいないが、天気の良い日は、なるべく外気に触れてもらえるよう支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	孫の結婚式に出席させたいとのご家族の希望にお応えし、ケアプランと連動させて、当日までの体調管理や定期的な声かけ、お祝いの色紙書き、車の中や式場で混乱しないような工夫等の検討を行い、成功したケースあり。	○	希望があれば、ご家族の協力を得る形で、その方にとって特別な意味のある場所に出かける機会を作りたい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける方に対しては、贈り物を頂いた際のお礼状や年賀状書きの支援を行っている。電話の取次ぎは常時行っているが、自分でかけることができる方はいない。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	基本的に個室での面会をお勧めし、ご家族と入居者だけの時間を大事にしているが、ご本人とどう接してよいか分からない、といった雰囲気の際は、他入居者やスタッフと一緒にその場の中で楽しんでいただけるようお迎えしている。希望があれば、一緒に入浴してもらったり、敷地内に宿泊設備もある。面会時間の制限はない。そのご家族の事情によって頻度は異なるが、定期的な面会回数が保たれており、時にはご家族が利用者を外に連れ出したり、必要時はスタッフが同行することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「緊急やむを得ない身体拘束に関する指針」を定め、禁止の対象となる具体的な行為を記載し、スタッフに回覧している。全スタッフが「身体拘束は行わない」という認識を持ち、実践している。毎月のミーティングで意識付けのための勉強会を行い、他部署合同の内部研修で、身体拘束をテーマに発表を行う予定となっている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠していることの多方面へのデメリットは認識しているが、坂道や交通量の多い道路に面していたり、見守りが行き届かない現実の中、鍵をかけないケアになかなか取り組めないでいる。	○	入居者の状態変化があり、可能なのではないかとスタッフが判断できる時が来たら、すぐに取り組みたい。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜とも、スタッフは入居者の見守りがしやすい位置で所在確認を行い、事故防止に努めている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その時の状況に応じて、注意の必要な物品を一時的にしまうことはあるが、全体の状態を見ながら、再び定位置に戻している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在の入居者の状況に応じて、想定される事故（転倒、状態変化、誤嚥、窒息）を検討し、ケアプランに取り入れている。誤薬は、服薬の流れを整理しなおすことで防げるようになった。事故に関する報告は迅速に行い、今後の対応に繋げている。報告書は閲覧しやすい場所に保管している。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを作成し、ミーティングで取り上げ、読みあわせを行っている。救命救急講習は全てのスタッフが受講できているわけではない。	○	救命救急講習に積極的に参加する機会を作る。
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、避難訓練を実施し、消防署に認知症の方の対応方法等相談をしている。他部署合同で火災報知システムの使用方法について定期的に講習を行い、災害用救急箱を設置している。	○	地域の方に協力が得られるよう働きかけたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	例えば、転倒が予測される方に対しては、ご家族にそのリスクを伝え、大きな事故ではなくても、転倒が起こるたびにすぐに報告し、状況を伝える努力をしている。ケアプラン見直し時に予想するリスクを説明し、ご理解頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異常の兆候に気づいたら、速やかに報告し、早期対応に結びつける行動が日常化している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬をなぜ、どのくらい、どの程度の期間飲むのか、を全スタッフが理解し、把握するよう努めている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の排便のリズムを把握し、それを維持するよう努めている。繊維ゼリーや乳製品を取り入れ、自然排便を促している。処置が必要な場合も、本人に負担のない形を考慮している。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後行えているのは、一部の方のみだが、全入居者に夕食後のお手入れを行っている。その際は、残存能力を活かすよう支援している。義歯の管理はスタッフが確実にやっている。		
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、厨房の管理栄養士が考えた献立となっており、摂取量が少ない方には、その方の好む代替食や高カロリーゼリー等で補食を行っている。水分摂取は確実に出来るよう、チェック表を使用している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症をテーマにした勉強会を定期的に行い、その季節、地域で流行している感染症には、予防法、対応方法を資料として配布するなどしている。また、感染症対応マニュアルを作成し、閲覧しやすい場所に保管している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消費期限が切れた食材は確実に処分している。まな板、包丁は使用前後にアルコール消毒を行い、台拭きは毎日ハイター消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	緑や花を多く植え、手作りの看板を掛け、親しみやすい外観となるよう工夫している。外から見える渡り廊下に季節の花や小物を飾り、ギャラリー風の雰囲気作りをしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使いやすい椅子やテーブルの配置を考え、リビングから季節の花を植えた庭が見え、洗濯物を干したり生活感を感じるような雰囲気作りを行っている。換気、室温調整、カーテンの開閉などで、利用者が心地よく過ごせるように努めている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとは別に4ヶ所、ベンチスペースがあり、人の気配を感じながら、人と話さず過ごすことも出来る。		
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物(その方の昔使っていた時計、掛けていた自画像、家具、写真等)やお好みの色、雰囲気等、その方らしい居室となるよう配慮している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気に応じて、適切な温度となるよう、こまめに温度調整、湿度調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適切な位置に手すりを設置し、安全な動線が確保できているか、常に確認している。居室にポータブルトイレを設置したり、ベッド柵に透明な緩衝材を巻きつける、スイングバーを導入するなど、その方の活動性を維持するための工夫を行っている。例えば、普段は肘掛椅子、移動時は介助型車椅子、食事時は角度をつけて嚙下しやすくするためリクライニング車椅子、と椅子の使い分けも行っている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ガラスを認識できず、通りかかる人に返事をしてもらえなかったり、前に進めないもどかしさに混乱・不穏となる方がいたため、玄関扉の一部（その方の視界の範囲のみ）に緑のカモフラージュシートを貼り付けた。また、衣類のほつれやボタンが気になる方には、修繕を行っている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に季節の花を植え、ベンチを置き、散歩や外気浴が楽しめるような空間作りをしている。天気がよければ、おやつを外で食べることもある。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年11月にターミナルケアに初めて取り組んだ、ということと、入居者の重度化がすすんでいることから、医療連携に重点的に取り組んでいる。地域の中で専門医を探したり、ご家族の希望に応じて主治医の変更を行ったり、受診に同行し、施設Ns. やかかりつけ医との間で情報をつないだり、ご家族にわかりやすく説明したり、ケアプランに取り入れたり・・・と事業所内でのケアにとどまらない業務も増えてきた。医療ニーズの高い方が多いが、体調を崩すことはない。また、重度化したことでよりいっそうの個別ケアを重視するようになった。ケアプランの項目が細やかになり、客観的な評価の必要性からチェック表を使用したことで、スタッフのケアプランに対する信頼性と重要性の認識が高まった。転倒リスクが高い方も増え、スタッフは神経を消耗することもあるが、1年間離職者が出ず、管理者を中心にスタッフの気持ちのまとまりが出来てきている。その他、事業所としてやらなければいけない事(状態変化にあわせた対応、マニュアル作り、研修など)に少しずつ取り組み、成果を出している。